

中国語の副詞“才”と語気助詞“了”との関係

張 岩 紅

目 次

- I. はじめに
- II. 副詞“才”と助詞“了”とに関する先行研究
 - 2.1. 副詞“才”
 - 2.2. 助詞“了”
- III. 副詞“才”と語気助詞“了”とは一般になぜ呼応しないのか
- IV. 副詞“才”と語気助詞“了”とが呼応する場合
 - 4.1. 時間副詞“才”と出来事の実現に傾く“了_m”との呼応関係
 - 4.2. “才”と主観的な語気に傾く“了_m”との呼応関係
- V. おわりに

I. はじめに

副詞“才”と語気助詞“了”とは、同一文中では一般に呼応して用いることがない、と言われている。たとえば、劉月華は「“才”を用いる文末には、通常は“了”を用いることができない」(劉月華等著《实用现代汉语语法》2002年 商务印书馆 p247)と述べている。杉村博文も副詞“才”と語気助詞“了”とは相性が悪い(杉村博文著『中国語文法教室』p112)と述べている。しかし、劉月華も杉村博文も両者が呼応しないと言っているわけではない。また、『日中対訳コーパス』(北京日本学センター編 2003年第一版)を検索してみると、“才”と文末の“了”とが同一文中に使われている文は、中日・日中の対訳を合計すると150例近くある。この数量は決

して少ないとは言えない。

一般には劉月華が言うように副詞“才”と語気助詞“了”とは、たしかに同一文中で呼応して用いることは少ない。たとえば次の通りである。

他才回来, 大衣还没脱呢! (《语法精讲》p.56) / 彼は帰ってきたばかりで、オーバーをまだ脱いでいません。(筆者訳)

他才看了一遍, 就记住了。(《应试语法》p.143) / 彼はたった一回見ただけで、覚えてしまった。(筆者訳)

八点上课, 他九点才来。(《应试语法》p.144) / 8時に授業が始まるのに、彼は9時になってやっと来た。(筆者訳)

“才”は副詞なので、主体の動作や行為と関係する。筆者の分析では、上記3例中の最初の文中の副詞“才”は動作や行為“回来”が直前に行われたことを表し、2番目の“才”は動作や行為“看了一遍”が一般通念を大幅に下回っていることを表し、3番目の“才”は動作や行為“来”が一般通念を大幅に上回っていることを表す。副詞“才”の用法はこのように一見すると多様であるが、本稿では、この多様な“才”を体系的に整理し、プロトタイプとバリエーションとに分け、“才”の用法を体系的に明らかにする。

本稿では以下の点について言及する。

1. 副詞“才”と語気助詞“了”とが一般になぜ呼応しないのか

2. 副詞“才”と語気助詞“了”とがなぜ呼応する場合があるのか
3. 1と2の中国語に対応する日本語との関係

II. 副詞“才”と助詞“了”に関する先行研究

副詞“才”と助詞“了”に関する研究は少なくない⁽¹⁾。本稿では中国で最も基本となっている辞典《現代汉语词典》(第5版 商务印书馆 2005年)に挙げられている副詞“才”と助詞“了”との項目を検討し、両者の関係を見てみる。《現代汉语词典》のなかの副詞“才”と助詞“了”の各項目には次のような用法と例文が挙げられている。

2.1. 副詞“才”

- 1) 直前を表す：

你怎么才来就要走？ / どうしてきたばかりなのにすぐに帰ってしまうの。(筆者訳)

- 2) 事柄の発生や収束が遅いことを表す：

他说星期三动身，到星期五才走。(事柄の発生) / 彼は水曜日に出発するといっていたのに、金曜日になってやっと出かけた。(筆者訳)

大风到晚上才住了。(事柄の収束) / 強い風は夜になってやっとやんだ。(筆者訳)

- 3) ある条件の下にだけ起こる結果を表す：
只有依靠群众，才能把工作做好。 / 大勢の人の協力がなければ、仕事をうまくやれない。(筆者訳)

- 4) 本来とは異なる新しい情況の発生を表す：

经他解释之后，我才明白是怎么回事。 / 彼から説明されて、初めてどういうことなのかが分かった。(筆者訳)

- 5) 数量や回数の少ないこと、能力や程度の

低いことなどを表す：

这个工厂开办时才几十个工人。(数量や回数の少ないこと) / この工場の創業時には労働者がたった数十人しかいなかった。(筆者訳)

别人一天干的活儿他三天才干完。(能力や程度の低いこと) / 人が一日で終える仕事を彼なら3日間かかる。(筆者訳)

- 6) 強調することを表す：

麦子长得才好呢！ / 麦がよく育った。(筆者訳)

我才不信呢！ / 私にはとても信じられません。(筆者訳)

《現代汉语词典》が挙げる副詞“才”の用法六種類の中に、一例(“大风到晚上才住了。”)だけ副詞“才”と助詞“了”とが呼応している例がある。この点からも副詞“才”と助詞“了”とは何らかの意味で呼応する場合があると言える。

2.2. 助詞“了”

- 1) 動詞や形容詞の後に用いて、動作や変化がすでに完成したことを表す。

- a) 実際にすでに発生した動作や変化に用いる：

这个小组受到了了表扬。 / このグループは表彰された。(筆者訳)

水位已经低了两米。 / 水位はすでに2メートル下がった。(筆者訳)

- b) 予期したり仮定したりする動作に用いる：

你先去，我下了班就去。 / さきに行ってください。私は仕事がひけてから行きます。(筆者訳)

他知道了这个消息，一定也很高兴。 / かれもこのことを知ったら、きっと喜ぶに違いない。(筆者訳)

- 2) 文末や文中の停頓に用い、変化や新しい情況の出現を表す。

- a) ある情況がすでに出現していたり間もなく出現したりすることを表す：

下雨了。/ 雨だ。(筆者訳)

春天了，桃花都开了。/ 春になり，桃の花がもう咲いた。(筆者訳)

他吃了饭了。/ 彼は食事を終えている。(筆者訳)

天快黑了，今天去不成了。/ 間もなく暗くなるので，今日は行けなくなりました。(筆者訳)

- b) ある条件の下で起こるある情況を表す：

天一下雨，我就不出门了。/ 雨なら，私は外出しません。(筆者訳)

你早来一天就见着他了。/ 一日早く来たら，彼に会えたのに。(筆者訳)

- c) 認識，考え，主張，行動などの変化を表す：

我现在明白他的意思了。/ 私は今彼の考えが分かりました。(筆者訳)

他本来不想去，后来还是去了。/ 彼は本来行きたくなかったのだが，その後はやはり行きました。(筆者訳)

- d) 催促や勧告を表す：

走了，走了，不能再等了！/ 行きましょ
う，行きましょ。これ以上待てません。(筆者訳)

好了，不要老说这些事了！/ 分かった。
いつも同じことばかり言うな。(筆者訳)

《現代汉语词典》では助詞を二種類に分けている。一般には助詞“了”の1)は動態助詞と言い，2)は語気助詞と言う。前者は動詞や形容詞の後に用い，動詞や形容詞で表す運動の実現の局面を表している。運動の実現の局面を表すので，アスペクト助詞とも言われている。後者は動作や行為を含む出来事の実現と語気を表すので，モダリティ助詞とも言われている。

本稿では上記に挙げる副詞“才”と文末に用いる助詞2)の“了”(語気助詞の“了”)を研究対象とし，両者の呼応関係と日本語訳の問題について言及する。

Ⅲ. 副詞“才”と語気助詞“了”とは一般になぜ呼応しないのか

《現代汉语词典》では副詞“才”を用法により六種類に分けている。これは言語事実からの分類であり体系化されているとは言えない。筆者は《現代汉语词典》で挙げる六種類の用法を以下のように分類し体系化する。

- 1) 出来事が直前に行われることを表す。

(1) 晚会才开始。(《语法精讲》p.56) / 交歓の夕べは始まったばかりです。(筆者訳)

(2) 小明才来上班。(《语法精讲》p.56) / 明君は出勤して来たばかりです。(筆者訳)

本用法の“才”は《現代汉语词典》でも「直前を表す」用法として一番目に挙げている。筆者も本用法を副詞“才”のプロトタイプ用法とする。副詞“才”は動作や行為が直前に行われることを表すので，出来事はすでに実現されている場合が多い。出来事がすでに実現されている場合は，実現されている出来事に対し，出来事の実現を表す語気助詞の“了”は同一文中に用いることができない。出来事が未実現であれば，実現されていない出来事に対しては，一般には実現を表す文末の“了”はやはり用いることができない。この2つの理由により，“才”と文末の“了”とは呼応しない。なお，本用法の“才”は動作や行為が直前に行われることを表すので，時間副詞とする。

- 2) 出来事が一般通念を大幅に上回っていることを表す。

(3) 我等了半天他才来。(《应试语法》p.143) / 長いこと待って，彼はやっ

と来た。(筆者訳)

(4) 王明昨天才到大连。(《语法精讲》p.56) / 王明さんは昨日やっと大連に着いた。(筆者訳)

(5) 他三十多岁才结婚。(《应试语法》p.143) / 彼は30歳を過ぎてやっと結婚をした。(筆者訳)

(6) 我找了他好几次才找到。(《应试语法》p.143) / 彼を何度も訪ねてやっと彼に会えた。(筆者訳)

例(3)は時間が長いこと、例(4)は時間が遅いこと、例(5)は年齢の高いこと、例(6)は回数の多いことを表す。いずれも出来事が一般通念を大幅に上回っていることを表している。時間副詞“才”のプロトタイプ用法は動作や行為が直前に行われることを表すので、出来事を表す数量が多ければ、一般通念を大幅に上回る極端に時間の長いことや遅いことや年齢の高いことや回数の多いことなどを表す。これは出来事との関係で時間の長いことや遅いことを表すのであり、時間副詞“才”のバリエーション用法といえる。本用法も出来事がすでに実現されているので、出来事の実現を表す語気助詞の“了”は同一文中に用いることができない。

本用法の時間副詞“才”は一般には出来事がすでに実現しているが、以下の用法のように未来時間に現れる出来事のなかにも用いられる。

(7) 我今天不回国，明天才回。(《语法精讲》p.56) / 今日帰国するのではなく、明日帰国します。(筆者訳)

(8) 下午才上课，他上午就来了。(《应试语法》p.144) / 午後授業があるのに、彼は午前中に来た。(筆者訳)

本用法の時間副詞“才”は動作や行為が一般通念を大幅に上回る場合に用いる。それは出来事がすでに実現されていてもよく、まだ実現されていなくてもよい。出来事が実現されていない場合であれば、出来事の実現は例

(7)(8)のように未来時間に実現される。

3) 出来事が一般通念を大幅に下回っていることを表す。

(9) 我才等了几分钟，他就来了。(《应试语法》p.145) / ほんの数分待っただけなのに、彼はもう来た。(筆者訳)

(10) 才八点种，他就睡觉了。(《应试语法》p.145) / まだ8時なのに、彼はもう寝た。(筆者訳)

例(9)は時間が短いこと、例(10)は時間が早いことを表す。いずれも出来事が一般通念を大幅に下回っていることを表している。時間副詞“才”のプロトタイプ用法が動作や行為が直前に行われることを表すので、出来事を表す数量が少なければ、一般通念を大幅に下回る極端に時間の短いことや早いこと⁽⁵⁾を表す。これも出来事との関係で時間の短いことや早いことを表すのであり、時間副詞“才”のバリエーション用法といえる。本用法の“才”も出来事がすでに実現されていることを表しているので、出来事の実現を表す語気助詞の“了”はやはり同一文中に用いることができない⁽⁶⁾。

4) 出来事の強調を表す。

(11) 那里的风景才美呢。(《应试语法》p.144) / あそこの景色は実にきれいだ。(筆者訳)

(12) 我才不相信你的话呢。(《应试语法》p.144) / 君の話を絶対に信じない。(筆者訳)

出来事の強調を表す“才”は、よく文末に語気助詞“呢”をとまなう。本用法の時間副詞“才”は動作や行為が一般通念を大幅に上回る場合や下回る場合に使うので、出来事の強調を表し時間から解放される。出来事の強調を表す場合に使うのであれば、それは出来事がプラス方向(例11)でもマイナス方向(例12)でもよい。時間副詞“才”は本用法もバリエーション用法といえる。本用法は出来事の実現と関係がないので、出来事の実現を表

す語気助詞の“了”はやはり同一文中に用いることができない。

5) 出来事の因果関係を表す。

(13) 只有认真做, 才能做好。(《应试语法》

p.144) / まじめにやらなければ, うまくやれない。(筆者訳)

(14) 为了上大学他才这么拼命学习。(《应试语法》p.144) / 大学へ行くために,

彼は一生懸命勉強をしている。(筆者訳)

(15) 他因为生病才没来上课。(《应试语法》

p.144) / 彼は病気にかかってしまったので, 授業に出なかった。(筆者訳)

(16) 我是看你太累了, 才没叫醒你。(《应试语法》p.144) / 君がとても疲れて

いるようなので, 起こさなかったのだ。(筆者訳)

因果関係を表す“才”は、よくその前に“只有, 为了, 因为”などを用いている。本用法の時間副詞“才”は、“只有, 为了, 因为”などとともに出て来る因果関係を表す場合に使い、出来事の結論や結果を表す。本用法の“才”は“只有, 为了, 因为”などとともに出て来る因果関係を表すので、時間から解放されている。“才”が出来事の結論(例13, 14)や結果(例15, 16)を表す場合であれば、出来事の実現と関係がないので、語気助詞の“了”はやはり同一文中に用いることができない。

IV. 副詞“才”と語気助詞“了”とが呼応する場合

前述のように、助詞“了”は通常アスペクトとモダリティを表す二種類に分かれる。アスペクトを表す“了”は、一般に“了₁”と言われ、動詞や形容詞の後に用いて運動の実現の局面を表すので、本稿では“了_a”と言う。モダリティを表す“了”は、一般に“了₂”と言われ、文末に用いてある種の語気を表す

ので、本稿では“了_m”と言う。⁽⁷⁾

動態助詞“了_a”と語気助詞“了_m”は、時間副詞“才”との関係で次のような言語現象に分かれる。

(17) 他昨天到了北海道。→他昨天才到了北海道。

(18) 他昨天到北海道了。→他昨天才到北海道。

例(17)は運動の局面の実現を表すので、“了_a”は時間副詞“才”の用法に関係なく用いられている。例(18)はすでに実現している出来事の局面を表しているため、“了_m”を用いることができない。

動態助詞“了_a”は動詞や形容詞の運動の実現を表し、語気助詞“了_m”は出来事の実現を表す。換言すれば、“了_a”は“吃了”“红了”のように、動詞や形容詞の表す運動の実現の局面を表すのに用いるのだが、“了_m”は“吃饭了”“苹果红了”のように、主体の表す出来事の実現の局面を表すのに用いる。これを筆者はアスペクチュアリテイと言う。このほか、“了_m”は肯定の語気も表し、文の終了を表す機能もある。筆者は“了_m”をさらに出来事の実現の局面を表すアスペクチュアリテイと主観的な語気を表すモダリティの2種類に分ける。

本稿で対象とする“才……了”の“了”は文末に用いるので、語気助詞の“了_m”である。以下で時間副詞“才”と出来事の実現に傾くアスペクチュアリテイ“了_m”と主観的な語気に傾くモダリティ“了_m”の間にどのような呼応関係が存在するのかを明らかにする。

4.1. 時間副詞“才”と出来事の実現に傾く“了_m”との呼応関係

“才”と“了”とが呼応している“才……了_m”は、出来事の実現に傾く“了_m”であれば、形式的には“才”と呼応しているように見えるが、実際には“才”と呼応しているのではなく、“才”の後の出来事と関係がある

だけである。形式と意味から見ると，“才”と“了_m”との呼応関係は「“才”+知覚動詞+[出来事+了_m]」と「過去を表す時間名詞+“才”+[出来事+了_m]」と「“才”+[出来事+了_m]」との三用法がある。

4.1.1. “才”+知覚動詞+[出来事+了_m]

“才”と“了_m”とが形式的に呼応しているように見える「“才”+知覚動詞+[出来事+了_m]」を用いている例文から見てみよう。

(19) 听到有人敲门，开门一看，是孟蓓，这才明白赵涛那家伙把自己骗了。/ 玄関をノックする音がしたので開けに行くと、なんと孟蓓が立っているではないか。そこではじめて趙涛に騙されたことに気付いたのである。

(20) 列车的一个个窗口在他眼前闪过去，他才知道火车已经开了。/ 列車の窓がいくつも目の前を通り過ぎて、初めて彼は我に返った。

(21) 当姓余的告诉我老卢被捕的那一霎间，我才明白我是爱上他了……/ わたしに告げたとき、はじめてわたしは、じぶんがかれを愛していたことを、悟ったのです。……

上掲の例文では“才”と知覚動詞“明白/知道”などが呼応して「出来事が一般通念を大幅に上回って気がつく」ことを表し、文末の“了_m”は出来事が実現したことを表している。“才”は“明白/知道”の出来事全体を表す内容と関係している。たとえば、例(19)の“才明白”の内容は“赵涛那家伙把自己骗了”，例(20)の“才知道”の内容は“火车已经开了”，例(21)の“才明白”の内容は“我是爱上他了”である。“了_m”は“把自己骗”“开”“爱上他”などと関係があり，“才”とは関係がない。出来事が一般通念を大幅に上回っていることを表す“才”は「気がつく」ことと関係するので、日本語の「初めて」と対応する。日本語が原文で中国語が訳文の文中にも、

この言語現象は見られる。

(22) そのとき初めてシゲ子が頭の髪を焦がしていることに気がついた。/ 这时，我才发现繁子的头发烧焦了。

(23) その時になってはじめて、生きて行くという事のむずかしさが実感となった。/ 这时她才感到一个人生活太困难了。

(24) 然し野田が尻持を突いたところを見て始めて、おれの成功した事に気がついたから、此畜生、此畜生と云いながら残る六つを無茶苦茶に擲き付けたら、野田は顔中黄色になった。/ 可是当俺看见“整脚帮”吓得一个屁股蹲儿跌在那里，俺这才发觉这样打法是收效了，于是俺一边骂着“混帐！混帐！”把剩下的六个鸡蛋，全都狠命地摔到“整脚帮”的脸上，“整脚帮”满脸变成黄的啦。

例(22)の“才发现”の内容は“繁子の头发烧焦了”，例(23)の“才感到”の内容は“一个人生活太困难了”，例(24)の“才发觉”の内容は“这样打法是收效了”である。文末の出来事の実現に傾く“了_m”は出来事の実現を表し、出来事が一般通念を大幅に上回っていることを表す“才”とは関係がない。“才”は単に“发现/感到/发觉”と関係するだけである。知覚動詞が“了_m”を含む出来事と関係している。上掲の例文のなかで、「気がつく」ことと関係する“才”と対応する日本語は、いずれも「はじめて」である。

4.1.2. 過去を表す時間名詞+“才”+[出来事+了_m]

“才”と“了_m”とが形式的に呼応しているように見える「過去を表す時間名詞+“才”+[出来事+了_m]」を用いている例文を見てみよう。

(25) 多少年来，多少个有志气的人，想夺回自己的土地，可是办不到，只有在

无产阶级领导下的革命，才办到了。 /
どれだけの年月，どれだけ多くの気
骨ある人たちが，自分たちの土地を
奪い返そうとして結局は失敗したこ
とか。プロレタリア階級が指導する
革命によって，それが初めてなしと
げられたのだ。

- (26) 粉碎“四人帮”以后，十一届三中全
会重新确立了实事求是的思想路线，
确定了以发展生产力为全党全国的工
作中心，改革才重新发动了。 / 「四
 人組」を粉碎したあと，十一期三中
 総は实事求是の思想路線を改めて確
立し，生産力の発展を全党・全国の
活動の中心とすることを明確にし
て，改革は改めて手をつけられるこ
とになりました。

- (27) 直到一九七八年底我们党的十一届三
中全会（9），才把这个问题恰当地解
决了。 / この問題は一九七八年末の，
わが党の十一期三中総〔九〕ではじ
めて解決されたのです。

- (28) 从九一八事变以后，就产生了和平团
结的需要。我们要求了，但是没有实
现。到西安事变以后，“七七”抗战
以前，才实现了。 / 九・一八事变の
ときから，平和・団結の必要がうま
れた。われわれはそれを要求したが，
実現されなかった。西安事变のあと，
「七・七」抗戦のまえになって，やっ
と実現した。

例 (25) から (28) までの“才”は文末の
 “了_m”とは形式的に呼応しているように見え
 るものの、両者は直接的な関係がない。“了_m”
 はいずれも文中の前の部分に現れる過去を表
 す時段や時点と呼応し、出来事がすでに実現
 していることを表し、“才”は出来事が一般
 通念を大幅に上回っていることを表す。上掲
 の文中では、過去を表す時間名詞は“了_m”
 と呼応して「過去時間詞（時段と時点）+ 出

来事+“了_m”」の構造を作っている。たとえ
 ば、例 (28) の“才”は「事柄の発生や収束
 が時間的に遅い」ことを表し、時間を表す「到
西安事变以后，“七七”抗战以前」は“了_m”
 と呼応し、出来事“和平团结”が実現したこ
 とを表している。この構造の文は文中によく
 説明的な回想が現れるので、日本語では「は
 じめて / やっと……したのだ、するようにな
 った」という表現形式を用いる。日本語が
 原文で中国語が訳文の文中にも、この言語現
 象が見られる。

- (29) もっとも、しゃべると喜助が叱りつ
 けたせいもあるけれど、辛うじて，
ひくい声ではなしをするようになったのは，
二月の終りになってからで
あった。 / 当然，一讲话就会受到喜
 助的训斥也是一个原因。好不容易熬
 到二月底，玉枝才开始低声说话了。

例 (29) の“才”も「事柄の発生や収束が
 時間的に遅い」ことを表し、時間を表す“二
 月底”は“了_m”と呼応し、“了_m”によって
 出来事“开始低声说话”が実現したことを表
 している。

4.1.3. 出来事の反駁を強調する“才”+[出来 事+了_m]

「出来事の反駁を強調する“才”+[出来事
 +了_m]」で作る例文は少なく、筆者の収集し
 た例文はわずか1例しかなかった。

- (30) “喝醉了？你才醉了！就是老子杀
的！” / “なにを？おまえこそ酔っ
ぱらいだ！俺が殺したんだぞ！”

例 (30) の“才”は出来事の反駁を強調す
 る用法である。そのため、「こそ」を用いて
 強調を表している。事柄の実現に傾く“了_m”
 は出来事“酔”がすでに実現していることを
 表し、“才”は出来事の実現に傾く“了_m”と
 はいかなる関係もない。

筆者が収集した「出来事の反駁を強調する
 “才”+[出来事+了_m]」で作る例文は少な

かったが、日常生活の中にはよく見られる。たとえば、“你疯了?” “你死了?” “你失恋了?” など、本人を怒らせるような問題が生じたときに、よく“你才疯了” “你才死了” “你才失恋了” などの反駁表現を用いて出来事を強調し、自分自身の不満を表す。これらの“才”は例(30)と同様に強烈な反駁を表し、文末の出来事の実現に傾く“了_m”とは関係がない。

“才”と出来事の実現に傾く“了_m”との呼応関係から見ると、“才”は“了_m”を含む出来事全体と関係があるが、出来事の実現に傾く“了_m”とは関係がない。「4.1.1. “才”+知覚動詞+[出来事+了_m]]」や「4.1.2. 過去を表す時間名詞+“才”+[出来事+了_m]]」「4.1.3. 出来事の反駁を強調する“才”+[出来事+了_m]]」の出来事の実現に傾く“了_m”は、その前の出来事とかかわり、“才”とは関係がない。これらの文中の“了_m”は出来事の実現を表し、これらの文中に[出来事+了_m]全体が加わっていると言えよう。

4.2. “才”と主観的な語気に傾く“了_m”との呼応関係

“才……了”の“才”は、既述のように出来事の実現に傾く“了_m”とは関係がないが、主観的な語気に傾く“了_m”とは特定の関係がある。筆者の分析によれば、“才”と主観的な語気に傾く“了_m”との呼応関係は「現在を表す時間名詞+“才”+出来事+“了_m”」と「原因+“才”+出来事+“了_m”」と「付加成分+“才”+出来事(“真”)不知怎么(動詞)才好+“了_m”」との三種類がある。

4.2.1. 現在を表す時間名詞+“才”+出来事+“了_m”

“才”と“了_m”とが呼応する「現在を表す時間名詞+“才”+出来事+“了_m”」を用いている例文を以下で見てみよう。

(31) 他现在才算把事情看透了。 / やっと

事情が飲みこめた。

(32) 二哥，我现在才晓得演戏的奥妙了。 / 二哥，僕いまやっと芝居のことが分ったんだよ。

(33) 我放她去了，我现在才明白了。 / 僕は彼女を放してやった。僕にはいますべてがわかったのだ。

(34) 先前，我自以为是失败者，现在知道那并不，现在才真是失败者了。 / 以前、ぼくは自分を失敗者だと思っていたが、いまではそうじゃなかった と思いなおしている。いまこそ、ほんとうに失敗者なのだ。

(35) 同志们，咱们为建设社会主义的战斗，今天才真正开始了！ / 同志諸君。社会主義を建設するおれたちの闘いは、今日、ここに始まった。

(36) “今天，我才对咱们北大真有信心了！” / 「今日、わたしは、はじめて、わたしたちの北大に確信がもてたわ！」

例(31)から(36)までに用いられている現在を表す時間名詞“现在/今天”は、出来事が一般通念を大幅に上回っていることを表す“才”と呼応し、“现在/今天才……了”の構造を作る⁽⁸⁾。これらの文中に用いられている主観的な語気に傾く“了_m”は“现在才算把事情看透”“现在才晓得演戏的奥妙。”“现在才明白。”“现在才真是失败者。”“今天才真正开始。”“今天，我才对咱们北大真有信心。”と省略することもできるが、“了_m”があると、それがない文より自然で、話者の主観的な語気を表現できる。この構造に用いられる“才”は、出来事が一般通念を大幅に上回っていることを表すので、現在時間を表す“现在/今天”とともに用いられると、日本語ではよく「いまやっと、いまこそ、今日ここに、今日 はじめて」などの表現形式と対応する。日本語が原文で中国語が訳文の文中にも、この言語現象が見られる。

(37)「南嶽は十年もお前を放したがらなんだ。今になって、ようわかるわ。さと。お前は、わしの仏や、愛根じゃ」/“南岳跟你快乐了十年。现在，我才懂了，里子，你就是我的佛陀，我的爱神。”

(38)「それは不可。上げるものは上げる，頂くものは頂くサ。え——君はこの方は遣らないのかと思ったが，なかなかいけますねえ。君の御手並を拝見するのは今夜始めてだ」/“这样可不行，该你喝的你就喝，该我喝的我也喝。嗨，我原以为你和酒无缘呢，没想到你还真能喝，今夜才算是知道你的海量了。”

(39)新聞がそんなものなら，一日も早く打っ潰してしまった方が，われわれの利益だろう。新聞にかかれるのと，泥糞に喰いつかれるとが似たり寄ったりだとは今日只今狸の説明に因って始めて承知仕った。/如果报纸就是这样一种东西，那么早一天把它砸烂，岂不对天下人更有好处。所谓一旦被上了报，就会和被甲鱼咬住了一样。这点，此时此刻，通过“狗獾”的说明，俺才算真正谨敬领教了。

例 (37) から (39) までの“才”は現在時間を表す“现在才/今夜才/此时此刻才”とともに用いられている。これに対応する日本語は「今になって/今夜はじめて/今日只今はじめて」などの表現形式である。“了_m”はあってもなくても文は成立するが，あるほうがより自然であり，主観的な語気が表れる。

4.2.2. 原因+“才”+出来事+“了_m”

“才”と“了_m”とが呼応する「原因+“才”+出来事+“了_m”」を用いている例文を以下で見てみよう。

(40)本来他不愿意管，昨个，听说刘祥家出了事儿，他心里一高兴，才答应

了。/あの人はね，あんまり乗気じゃなかったんだけど，きのう劉祥んとこの話を聞いてから，すっかりごきげんになって，やっとウンと言ったんだよ。

(41)这颗钮扣本来掉了，那天，是她给另一位同志做针线提醒了我，我才把它钉上了。/このボタンが取れてなくなっていたとき、彼女は他の同僚のボタンをつけてやって、おれに注意を促してくれた。それでおれはこれをつけたのだった。

(42)我对她说，帐子不是我的，是一个还没回校的同学的。她这才接受了。/おれは、蚊帳はおれのではなく、帰省中の同級生のだと言った。それで彼女はやっと受け取った。

例 (40) (41) (42) に用いている“才”は，その前の原因と関係して，その後で結果を述べている。仮に“才”の前に述べる原因がなければ，主観的な語気に傾く文末の“了_m”はなくてもよい。本構造では“才”の前に原因が述べられているので，“了_m”が加わったのである。文全体の構造は“因为……才(变得)……了”と考えられる。たとえば，例 (40) では“他心里一高兴”は“答应”する原因となり，“答应”は“他心里一高兴”の結果である。すなわち，原因“他心里一高兴”があることによって，結果“答应”が生じたのである。このように分析するのであれば，本構造に用いられる“才”は主観的な語気に傾く文末の“了_m”と呼応する。言語事実の表す内容から，この用法の“才”は「出来事の因果関係を表す」と言えるであろう。この構造と対応する日本語は「それで/だから(やっと)……した，それで/だから(やっと)……したのだ」などである。日本語が原文で中国語が訳文の文中にも，この言語現象が見られる。

(43)山嵐もいつの間にか来ている。欠勤

だと思ったら遅刻したんだ。おれの顔を見るや否や今日は君の御蔭で遅刻したんだ。罰金を出したまえと云った。/ “豪猪” 也不知什么时候，到校来了。俺以为他今天请假，却原来是迟到了。他一看見俺，立刻就説“今天都是为了你的缘故，才迟到了，罚你拿出点钱来吧。”

- (44)「……寺坂があんな事を仕出かしたのは、お前のためだ。お前が結婚を承知すれば、あいつはこんな事をする筈はないんだ。お前が承知しないもんだから、あいつはやけくそになったんだ」/ “……寺坂能够做出这种见不得人的事，都是因为你。要是你答应同他结婚，他就不会干出这等事来。你不答应他，他才豁出去了……”

- (45) 君の仕事は、今日の昼の間に、死体を整理しておいて、焼却場のトラックに引渡す事だろう？ 僕は、もうすっかり準備ができたと思って、この人達に来てもらったんだ。/ 今天的工作不是白天整理好尸体，装载运往火葬场的卡车上吗？我以为都准备好了呢，才把他们叫来了。

- (46) そうよ、馬鹿よ。馬鹿だから、だまされるのよ。/ 是的，我傻。因为我才受骗了。

「原因+“才”+出来事+“了_m」は因果関係を説明するひとつである。そのため、主観的な語気に傾く文末の“了_m”は“的”に換えて“才答应的”“才把它钉上的”“才接受的”“才迟到的”“才豁出去的”“把他们叫来的”“才受骗的”と表現することもできる。しかし，“了_m”を用いれば主観的な語気を表し，“的”を用いれば原因を説明するという違いが出てくる。

“才”と主観的な語気に傾く“了_m”との呼応関係から見ると，“了_m”は4.2.1の「現在

を表す時間名詞+“才”+出来事+“了_m」構造のなかでは省略でき、4.2.2の「原因+“才”+出来事+“了_m」構造のなかでは“的”に換えることができるが、語気に傾いている点から見れば，“才”と特定の関係があると言えるであろう。

4.2.3. 付加成分+出来事“(真)不知怎么(動詞)才好”+了_m

“才”と“了_m”とが呼応する言語環境「付加成分+出来事“(真)不知怎么(動詞)才好”+“了_m」を用いている例文を以下に見てみよう。

- (47) 我对孙悦充满同情，又可怜孩子，更不知怎么回答才好了。/ おれは孫悦に心から同情した。その一方で子どもも哀れでならず、どう答えたらいいか、ますます分からなくなった。

- (48) 那时我想，“中国人真够仔细”，可是当我在东京看到大嚼生鱼片的中国人时，就不知该怎样理解才好了。/ 「用心深いのかな」とも思う反面，東京で刺し身に目がない中国人を見ると、頭の中が混乱してしまうのだった。

例(47)(48)に“更”“就”などの付加成分がなければ，“(真)不知怎么(動詞)才好”はごく一般的な表現形式であり，“才”は主観的な語気に傾く“了_m”とかかわりがない。しかし，“(真)不知怎么(動詞)才好”の前に“更”“就”などの付加成分があると，“了_m”はなければならない。この場合、文末の“了_m”は“更”“就”などの付加成分と呼応し，“更/就……了”の文構造を作り，“(真)不知怎么(動詞)才好”のなかの“才”とは関係がない。日本語が原文で中国語が訳文の文中にも、この言語現象が見られる。

- (49) 普通なら途方に暮れてしまうところだが、私には自分の店を持ち、一千万円貯めるという人きな目標が

ある。/ 若是一般人，早就不知怎么才好了，而我心中却藏着一个远大目标，即要有自己的店，积存1千万元。

- (50)「まるでキズキ君が暗いところから手をのばして私を求めているような気がするの。おいナオコ俺たち離れられないんだぞって。そう言われると私、本当にどうしようもなくなっちゃうの」/ “觉得就像木月从黑暗处招手叫我过去似的。他嘴里说：喂直子，咱俩可是分不开的哟！给他那么一说，我真不知怎么才好了。”

例(31)の“早就”は主観的な語気に傾く“了_m”と呼応し“早就……了”の文構造を作っている。例(32)は付加成分“给他那么一说”があるので、文末の“了_m”と呼応し「付加成分……“了”」の文構造を作っている。すなわち、例(32)は付加成分“给他那么一说”が主観的な語気に傾く文末の“了_m”と呼応している、と言える。仮に「本当にどうしようもなくなっちゃう」の「なくなっちゃう」を直訳すれば、“变得真不知怎么才好了”となるであろう。このように訳すとすれば、“了_m”は“才”とは関係がない。例(49)(50)の“了_m”はともに文末の付加成分と関係すると言えるであろう。

V. おわりに

劉月華などの文法書に見られるように、一般に動作や行為を含む出来事が直前に行われることを表す時間副詞“才”と動作や行為を含む出来事の実現と語気を表す語気助詞“了_m”とは機能が矛盾するので呼応しない。しかし、ある種の言語環境が加われば両者は呼応する。本稿は時間副詞“才”と語気助詞“了_m”がなぜ一般的には呼応しないのかと両者が呼応する場合を分析したものである。

本稿では文末の“了_m”を出来事の実現に傾く“了_m”と主観的な語気に傾く“了_m”の

2種類に分類している。出来事の実現に傾く“了_m”は運動の実現を表すのではなく、出来事内部の実現の局面(アスペクチュアリティ)を表し、主観的な語気に傾く“了_m”は単なる主観的な語気(モダリティ)を表している。

上記の分析によれば、出来事の実現に傾く“了_m”は「“才”+知覚動詞+[出来事+了_m]]」「過去を表す時間名詞連語+“才”+[出来事+了_m]]」「出来事の反駁を強調する“才”+[出来事+了_m]]」の3分構造のなかで出来事と関係し、出来事がすでに実現したことを表し、副詞“才”とは関係がない。主観的な語気に傾く“了_m”は「現在を表す時間名詞+“才”+出来事+“了_m”」「原因+“才”+出来事+“了_m”」「付加成分+“才”+出来事+“了_m”」の3分構造のなかで前2者は“才”と特定の関係があるが、3番目の構造は付加成分と“了_m”とが呼応している。

“才”と“了_m”とが同一文中に用いられている文中にあって、両者に対応する日本語は中日両言語の対応関係から見れば、原則として次のようになる。

- 1)「“才”+知覚動詞+[出来事+了_m]]」:
「はじめて……ことに気付いた」「はじめて……ことを悟った」などの表現形式
- 2)「過去を表す時間名詞連語+“才”+[出来事+了_m]]」:
「はじめて/やっと……したのだ」「……するようになった」などの表現形式
- 3)「出来事の反駁を強調する“才”+[出来事+了_m]]」:
「…こそ……だ」などの表現形式
- 4)「現在を表す時間名詞連語+“才”+出来事+了_m]]」:
「いまやっと」「いまこそ」「今日ここに」「今日はじめて」などの表現形式
- 5)「原因+“才”+出来事+了_m]]」:
「それで/だから(やっと)……した」「それで/だから(やっと)……したのだ」などの表現形式

6)「付加成分+“才”+出来事+“了_m”」:

付加成分の語彙的意味により、それに対応する日本語が異なってくる。

[注]

- (1) 荒川清秀 (1981) には「了」を嫌う副詞として、「才」と「刚」とが挙げられている。例外として次の例文などを挙げている。1981年当時では、荒川は「明確な答えを持っていない」(p.77) としている。
我现在才知道了。(今になってやっとわかった)
- (2) 《現代汉语词典》では副詞「才」を6つの用法に分け (p.123)、助詞「了」を2類に分け、2類の助詞をさらに用法ごとに分けている (p.824)。
- (3) 陆庆和 (2006) は「才」を時間副詞 (p.183) の中に入れている。
- (4) 杉村博文 (1994) も「～“才”…“呢”は未然の事態を現すことが可能です」(p.112) と述べ、以下の2例を挙げている。筆者は「才」だけで、未来時間を表す出来事の中にも用いられる、としている。なお、杉村の挙げる2例は「呢」がなくても成立する。
父亲晚饭后才回来呢。(父は夕御飯の後にならないと帰ってきません)
哪个银行十点才开门呢。(あの銀行は10時にならないと開きません)
- (5) 杉村博文 (1994) では時間を表す語が2つある場合、どちらを強く発音するかで、意味が違ってくる (p.113) と指摘している。
他明年才十六岁。
a. 彼は来年になってようやく16歳になる。(…“明年”を強く)
b. 彼は来年になってわずか16歳に過ぎない。(…“十六岁”を強く)
筆者の語感では、時間を表す語との関係ではなく、《現代汉语词典》で指摘するように、「才」が「事柄の発生や収束が遅いこと」と「数量や回数の少ないこと、能力や程度の低いこと」を表すからである。「才」を体系的に分析する筆者の分析によれば、「出来事が一般通念を大幅に上回っていること」と「出来事が一般通念を大幅に下回っていること」を表す用法であり、これは文脈によって文意が2つに分かれるだけである。
- (6) 副詞「才」のプロトタイプ用法は「出来事が直前に行われることを表す」だが、文末の「了」

は出来事の実現を表す。例 (9) (10) のように、すでに出来事が実現されていれば、出来事が直前に行われることを表す「才」を用いる。文中にすでに出来事が実現されていることを表す「才」を用いれば、出来事の実現を表す文末の「了」は「才」の用法と重複するので用いることができない。例 (7) (8) のように出来事が実現されていなければ、出来事の実現を表す文末の「了」は、出来事が実現されていないので用いることができない。

- (7) 高橋弥守彦 (2002) では「文のプロトタイプの展開における2つの“了”の表れる順序に従えば文末の“了”を“了_m”と称し、文中の“了_a”をと称す方が言語に実際に即している。これまでのように文中の“了”を“了₁”と言ひ、文末の“了”を“了₂”という呼称は必ずしも言語事実に即した呼称とは言えない」(p.172) と述べている。
- (8) 副詞「才」のプロトタイプ用法は「出来事が直前に行われることを表す」ので、「才」が過去や未来におこる出来事に用いられると、出来事の実現を表す文末の「了」とは呼応しないが、現在起こる出来事であれば、出来事の実現を表す文末の「了」と呼応し、例 (31) (32) のように、出来事とともに現在の変化を表す。

[言語資料]

日中对訳コーパス語料庫 (2003) 北京日本学研究中心編

[参考文献]

- 荒川清秀 (1981) 「了」のいる時といらぬ時」『中国語学 228』中国語学会
 河野直恵 (2002) 「才」と「了」の共起関係について」『中国語学 249』
 日中対照言語学会 (2002) 『日本語と中国語のアスペクト』白帝社
 高橋弥守彦等 (1995) 『中国語虚詞類義語用例辞典』白帝社
 刘月华等 (2002) 《实用现代汉语语法》(增订本) 商务印书馆
 吕叔湘 (1999) 《现代汉语八百词增订本》商务印书馆
 徐扬 (1991) 「“才”字说略——从日本学生的造句谈起——」『中国語学 238』
 邵敬敏 (1997) 「从“才”看语义与句法的相互制约关系」《汉语学习》第三期
 王还 (1994) 「“就”与“才”」《门外偶得集》北京

语言学院出版社

张谊生 (1996) 〈现代汉语副词“才”的句式与搭配〉

《汉语学习》第三期

张谊生 (2000) 《现代汉语副词研究》学林出版社

张岩红 (1997) 「“才”と“了”の関係」『中国語の環』中国語検定協会

中国社会科学院语言研究所词典编辑室编《现代汉语词典第5版》商务印书馆

李宝贵编著 (2005) 《HSK 语法精讲与自测》北京大学出版社

李大忠 (1996) 《外国人学汉语语法偏误分析》北京语言文化大学出版社

陆庆和 (2006) 《实用对外汉语教学语法》北京大学出版社

梁鸿雁编著 (2004) 《HSK 应试语法》北京大学出版社

张斌主编 张谊生著 (2000) 《现代汉语虚词》华东师范大学出版社

岳中奇 (2000) 〈“才”“就”句中“了”的对立分布与体意义的表述〉『语文研究』第三期

张斌主编 (2001) 《现代汉语虚词词典》商务印书馆

[Abstract]

The Relationships between the Temporal Adverb *cai*
and the Modal Particle *le* in Chinese

Yanhong ZHANG

This paper discusses the relationships between the temporal adverb *cai* and the modal particle *le* in the Chinese language. It is generally said that these two Chinese words are not used in combination in the same sentence. However, linguistic facts show that some exceptions do exist. First, in this study, different uses of the temporal adverb *cai* are classified into two groups: prototypes and variations. Then these uses are analyzed systematically, and their relationships with the modal particle *le* are examined. Finally, this article shows what linguistic phenomena occur and what corresponding relationships between the Chinese and Japanese languages are found in this regard both when *cai* and *le* co-occur in the same sentence and when they do not.

Key words: Temporal Adverb, Event, *le* Leaning toward the Actualization of an Event, *le* Leaning toward Subjective Emphasis